

旧日本史 A

(解答番号 ~)

第1問 高校生のユウトさんは、ある図書館で、1920年生まれの人物が1996年に執筆した『自分史』と題する冊子を見つけ、それを基にして自由研究に取り組んだ。次のメモA・Bは、ユウトさんがその冊子を読みながら作成したものである。これらのメモを読み、後の問い(問1～7)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 22)

A 『自分史』の著者の祖父と父の略歴

- ・幕末生まれの武士であった祖父は、① 明治維新により士族となった後、家計を支えるため食器などを製作していた。
- ・祖父は、明治前期に② キリスト教を信仰するようになり、賛美歌を歌いながら作業をしていた。
- ・父は、手先の器用さを買われて菓子店で修行し、独立して自分の店を持った。
- ・父は、包装用紙に英語を印字して、1904年にセントルイスで開催された③ 万国博覧会に菓子を出品した。

問1 下線部③に関連して、明治初期の士族に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 士族以外の人々も、幅広く徴兵の対象とする軍制が施行された。
- ② 地租を地価の2.5%に引き下げをを求める士族反乱を起こした。
- ③ 政府は士族が新しい仕事に就けるように事業資金を貸し付けた。
- ④ 政府は士族の困窮を救うために北海道などへの移住を奨励した。

問 2 下線部①に関連して、次の史料 1 と明治期のキリスト教に関して述べた後の文 a ~ d について、正しいものの組合せを、後の①~④のうちから一つ選べ。

2

史料 1 伊藤博文の説明(1888年6月)

そもそも欧州においては憲法政治の萌芽^{ほうが}せる事千余年、独り人民のこの制度に習熟せるのみならず、また宗教なるものありてこれが機軸をなし、深く人心に浸潤して人心^{これ}に帰一せり。然るに我が国^{しか}にありては宗教なるものその力微弱にして、一も国家の機軸たるべきものなし。(中略)我が国にありて機軸とすべきは独り皇室あるのみ。

(「憲法草案枢密院会議筆記」)

- a 史料 1 からは、伊藤はヨーロッパの人々が立憲政治に習熟しているだけでなく、宗教が国民統合の軸となっていると理解していたことが分かる。
- b 史料 1 からは、伊藤は日本においては宗教に加えて皇室を国民統合の軸に据えようとしていたことが分かる。
- c キリスト教の宣教師たちは教育・社会事業を実施しながら、布教活動に努めた。
- d 内村鑑三はキリスト教徒の立場から教育勅語を礼賛した。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

旧日本史A

問 3 下線部◎に関して述べた次の文X・Yと、それに該当する後の語句a～dとの組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 3

X 1873年のウィーン万博に参加した佐野常民は、この製品の改良について「蚕業織場勸興ノ報告書」を作成した。

Y 1893年のシカゴ万博に、この人物が制作した次の写真の木彫が出品され、金賞を受賞した。

写真



a 綿糸・綿織物

b 生糸・絹織物

c 狩野芳崖

d 高村光雲

① X — a Y — c

② X — a Y — d

③ X — b Y — c

④ X — b Y — d

B 『自分史』の著者の略歴

1920年7月 新潟県に生まれる。
 1940年3月 ㉑ 樺太の小学校教員講習所を卒業。4月より樺太で小学校の教員として教壇に立つ。この頃の樺太では、内地と同様の教育制度が施行されていた。
 1941年4月 陸軍に入隊。仙台、東京の部隊に所属する。
 1944年8月 ㉒ 陸軍を除隊。㉓ 樺太で教員に復職。日本の敗戦後もそのまま教員を続け、1947年6月には校長となる。
 1948年6月 教員を退職。7月に樺太から郷里へ引き揚げた。

問4 下線部㉑に関連して、日本とロシアとの境界に関して取り決めた次の条約Ⅰ～Ⅲが締結された時期について、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の㉔～㉖のうちから一つ選べ。 4

- Ⅰ サハリン島南部及びその付近における一切の島嶼^{とうしよ}並びに当該地方における一切の公共営造物及び財産を完全なる主権と共に永遠日本帝国政府に譲与す。
- Ⅱ 樺太全島はことごとくロシア帝国に属し、宗谷海峡を以て両国の境界とす。(中略)以後、千島全島は日本帝国に属す。
- Ⅲ 日本国とロシア国との境、エトロフ島とウルップ島との間にあるべし。

- ㉔ I — II — III
- ㉕ I — III — II
- ㉖ II — I — III
- ㉗ II — III — I
- ㉘ III — I — II
- ㉙ III — II — I

旧日本史A

問 5 下線部㉔に関して、『自分史』の著者が小学校教員講習所を卒業してから、陸軍を除隊するまでの期間に起こった出来事について記した文章と判断できるものを、次の①～④のうちから一つ選べ。なお、①～④はいずれも『自分史』の内容である。 5

- ① 共産党員の講師が一方的にマルクスの理論の話をも 8 時間講義し、いつも役人が同席していたので私語等は出来なかった。
- ② 国内では、国民精神総動員運動が始まり、また愛国行進曲が町の中でも盛んに歌われるようになってきた。
- ③ 小学校は国民学校と校名が変わり、音楽では、「ド」「レ」「ミ」を日本名の「は」「に」「ほ」と呼ぶように変わっていた。
- ④ 8 月 15 日のラジオニュースで天皇陛下の玉音放送があると言うので、お昼頃全職員が緊張した顔で校庭に集まった。

問 6 下線部㉕に関連して、次の史料 2 に関して述べた後の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

6

史料 2

昭和 20 年 9 月初旬、ソ連当局の指示により日本人学校はいち早く再開する事になった。(中略)ある日、ソ連の女性視学官(注 1)による各人の教員免許状の検査が行われる事になった。私は免許状を新潟県にいる両親の所に置いてある旨を話したら、翌月から少し給料を減額されてしまう羽目になった。

次の年、また同じ事が行われると他の先生方は私の事を心配して、何でもいいから印の大きな物を出したらいいと盛んに勧めてくれた。私は思い切って剣道二段の免許状をさりげなく出したら女性視学官は逆さまに見て「ハラショー」(注 2)と言い、翌月から給料は元に戻った。 (『自分史』1996 年)

(注 1) 視学官：学事の視察や、教職の監督をする役職。

(注 2) ハラショー：ロシア語で、すばらしいの意。

X 史料2から、樺太の日本人学校は、日ソ中立条約を破って日本領に侵攻したソ連によって監督されていたことが分かる。

Y 史料2から、敗戦後における樺太の日本人学校では、日本の教員免許状の所持の有無によって、教員の給料に差がつけられることになっていたと分かる。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問 7 ユウトさんは『自分史』に書かれた引き揚げの話を読んで、敗戦後の人々の移動について調べたことをメモにまとめた。次のメモの空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

メモ

- ・旧満州でソ連軍に武装解除された日本軍兵士の大部分は の収容所に送られ、強制労働に従事させられた。
- ・樺太では、多くの朝鮮人が引き揚げることができず、現地に取り残された。
- ・戦争の被害によって鉱工業生産が大幅に落ち込むなか、かつての占領地域や旧植民地などから多くの人々が引き揚げ、兵士も復員したことによって、都市部では が深刻化した。

① ア サハリン イ 失業問題

② ア サハリン イ 労働力不足

③ ア シベリア イ 失業問題

④ ア シベリア イ 労働力不足

旧日本史A

第2問 高校生のマサさんとミユさんは、東京都港区で「高輪築堤^{たかなわ}」と呼ばれる明治時代の鉄道遺跡が発見されたという新聞記事を読み、この遺跡から日本の近代化について考えることにした。次の会話を読み、後の問い(問1～4)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 12)

マ サ：明治時代、東京の一部の区間では、海の浅瀬に盛り土をして石で固めた堤の上を蒸気車(蒸気機関車)が走ったらしいよ。

ミ ユ：政府で鉄道の開通を主導したのは、欧米技術の導入に努めた **ア** だね。

マ サ：最初に鉄道が開業したのは **イ** と横浜との間だよ。

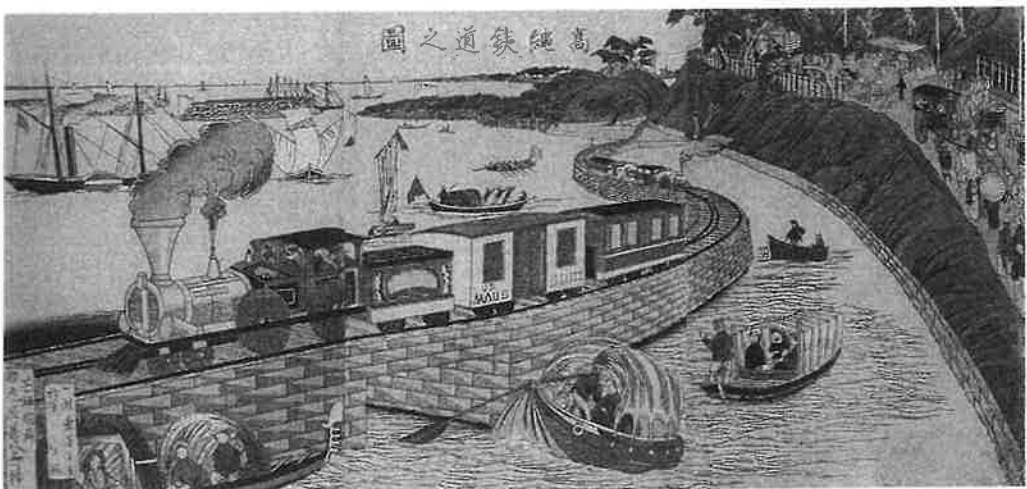
ミ ユ：実際に鉄道が開通する前年に描かれた錦絵(図)があるんだ。①西洋文明を象徴する黒船なども描かれていて、時代の雰囲気分かるよね。

マ サ：鉄道や蒸気車の知識は、②欧米諸国との交流が始まった幕末には、すでに日本に入っていたと本で読んだよ。

ミ ユ：それにしても、高輪築堤のような遺跡は、世界的にも珍しいらしい。

③当時の技術や、日本の近代化のあり方を知る上で貴重な遺産だね。

図



(『高縄(高輪)鉄道之図』)

問 1 空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 工部省 イ 上野 ② ア 工部省 イ 新橋
 ③ ア 内務省 イ 上野 ④ ア 内務省 イ 新橋

問 2 下線部②に関連して、幕末期には、西洋式艦船を想定して「大船」という言葉が用いられた。大船に着目したマサさんとミュさんは、次の史料を読んだ。この史料に関して述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

史料 1853年に幕府が大名に対して出した法令

大船停止の御法令(注1)に候処、方今(注2)の時勢大船必要の儀につき、今より諸大名大船製造致し候儀、御免なされ候間、作用方ならびに船数共委細相伺い、差図を受くべき旨仰せ出され候。尤右様御制度御変通遊ばされ候も、畢竟(注3)御祖宗の御遺志御継述(注4)の思召より仰せ出され候事に候間、邪宗門御制禁等の儀は、弥以て先規のごとく相守り、取締向き別して嚴重に相心得らるべく候。

(『幕末御触書集成』)

(注1) 大船停止の御法令：3代将軍が出した500石積以上の船の建造禁止令のこと。19世紀になると西洋式艦船の建造禁止令として理解されるようになった。

(注2) 方今：ただ今。 (注3) 畢竟：つまるところ。

(注4) 御祖宗の御遺志御継述：歴代将軍の方針を受け継ぐこと。

X 大名は幕府に断ることなく、西洋式艦船を製造できるようになった。

Y 幕府はこれまで禁止してきたキリスト教を、時勢に応じて解禁した。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
 ③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

旧日本史A

問 3 下線部㉔に関連して、幕末の日本と外国との関係に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 10

- Ⅰ イギリス人殺傷をきっかけとして、薩摩藩とイギリスが戦争になった。
Ⅱ 幕府は、アメリカと協定関税などを定めた条約を締結し、続いてイギリスなど4か国とも同様の条約を締結した。
Ⅲ 幕府は、アメリカ船に薪水や食料を供給することなどを定めた条約を締結した。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ
④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

問 4 下線部㉕に関連して、マサさんとミュさんは図書館で調べたことを、次のメモと表にまとめた。メモと表を踏まえて、明治期の状況に関して述べた文として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 11

メモ

- ・高輪築堤の建設にあたっては、石垣の基礎として、胴木と呼ばれる丸太や松の杭くいが使用されるなど、江戸時代の埋立て・石垣造りの技術が用いられた。
- ・蒸気車の運転や検査はお雇い外国人が担当したが、1879年には日本人最初の機関士が誕生した。
- ・お雇い外国人数は1886年以降減少傾向が続き、1899年には内閣によって外国人雇い入れに関する手続きが廃止された。

表 職務別お雇い外国人の推移

(単位：人)

年次	学術教師	技術者	事務家	その他	合計
1872年	102(28%)	127(34%)	43(12%)	97(26%)	369(100%)
1873年	127(25%)	204(40%)	72(14%)	104(21%)	507(100%)
1874年	151(29%)	213(41%)	68(13%)	92(18%)	524(100%)
1875年	144(27%)	205(39%)	69(13%)	109(21%)	527(100%)
1876年	129(28%)	170(36%)	60(13%)	110(23%)	469(100%)
1877年	109(29%)	146(38%)	55(14%)	71(19%)	381(100%)
1878年	101(31%)	118(37%)	51(16%)	51(16%)	321(100%)
1879年	84(32%)	111(43%)	35(13%)	31(12%)	261(100%)
1880年	76(32%)	103(43%)	40(17%)	18(8%)	237(100%)
1881年	52(31%)	62(37%)	29(17%)	23(14%)	166(100%)
1882年	53(34%)	51(32%)	43(27%)	10(6%)	157(100%)
1883年	44(33%)	29(22%)	46(35%)	13(10%)	132(100%)
1884年	52(34%)	40(26%)	44(29%)	15(10%)	151(100%)
1885年	61(39%)	38(25%)	49(32%)	7(5%)	155(100%)

(梅溪昇『お雇い外国人』により作成)

(注) ()内の数値は、合計に対する割合で、小数点以下を四捨五入したため、数値の合計が100%にならない年次がある。

- ① 学術教師であったお雇い外国人の意向により、日本美術を除外した東京美術学校が設立された。
- ② メモによれば、日本の在来技術をいかして行われた工事により、高輪築堤が完成したことが分かる。
- ③ 表によれば、お雇い外国人の人数が最も多い時期には、学術教師の数が技術者の数よりも多くなっていることが分かる。
- ④ メモと表によれば、日本人最初の機関士が誕生した頃から、お雇い外国人に占める技術者の割合は上昇する傾向にあったことが分かる。

旧日本史A

第3問 明治・大正期の日本と東アジアとの関係と、それが当時の人々の思想や生活に与えた影響について述べた次の文章A・Bを読み、後の問い(問1～7)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 22)

A

明治期の日本の重要な外交課題は、列強との間で締結した不平等条約の改正に加え、近隣諸国との関係の再構築にあった。そこで明治初期、㉑ 清や朝鮮との間に条約を結び国交を樹立した。明治中期以降、朝鮮半島をめぐる二度の対外戦争を経て、日本は台湾と朝鮮半島を領有することとなった。㉒ こうした対外関係は、当時の人々の思想や行動にも影響を与えた。他方、日本の近代化を学習したり、学歴を獲得したりすることを目的に、植民地を含む㉓ アジア各地からの留学生が増加し、彼らの日本での生活を資金面で支援する日本人もいた。

問1 下線部㉑に関連して、条約締結後における対清、対朝鮮関係に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

12

X 壬午軍乱を受けて、日清両国は天津条約を結び、今後、朝鮮に出兵する場合は互いに事前通告することとした。

Y 明治維新をモデルとした近代化を目指す閔氏の政権は、清の支援を受ける金玉均らと対立した。

- | | | | |
|-------|-----|-------|-----|
| ① X 正 | Y 正 | ② X 正 | Y 誤 |
| ③ X 誤 | Y 正 | ④ X 誤 | Y 誤 |

問 2 下線部⑤について述べた次の文 X・Y と、それに該当する後の語句 a～d との組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 13

X 民友社を設立して平民主義を主張し、政府を批判した。

Y 講和条約の内容に対する不満が、都市における民衆の暴動という形で表面化した。

a 徳富蘇峰

b 三宅雪嶺

c 日比谷焼打ち事件

d 福島事件

① X — a Y — c

② X — a Y — d

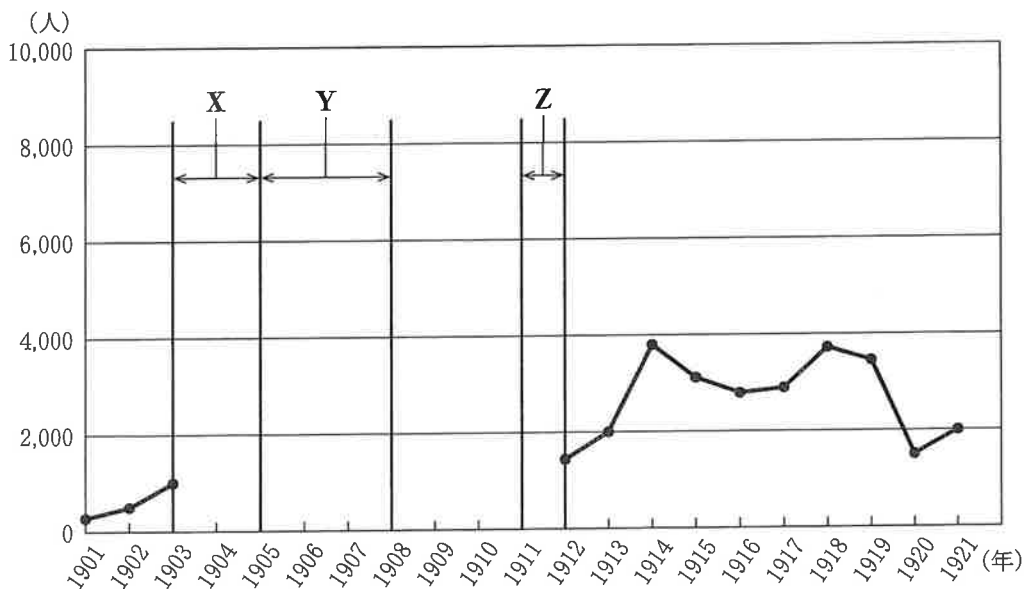
③ X — b Y — c

④ X — b Y — d

旧日本史A

問 3 下線部㉔に関連して、次のグラフは中国人留学生の増減を示したものである。この時期の日本における中国人留学生に関してまとめた後のメモを基に、グラフ中の期間X～Zにおける増減の組合せとして正しいものを、後の①～⑧のうちから一つ選べ。 14

グラフ 日本における中国人留学生数の推移



(衛道治ほか編『中外教育交流史』により作成)

(注) 1904年から1911年の数値はグラフに記載していない。

メモ

- ・1903年、清は官吏を登用する際、日本への留学生を優遇することとした。
- ・1903年から1905年にかけて、日本では中国人留学生を最短3か月の短期間で修了させる学校が多く設立された。
- ・1905年の年末、日本は中国人留学生の入国にあたり清公使館の推薦状提出を条件とするなど制限を加え、清も1906年には日本留学に条件を設け、日本への留学熱は沈静化した。
- ・辛亥革命が起こると、留学生は続々と帰国した。

- | | |
|------------------|------------------|
| ① X 増加 Y 増加 Z 増加 | ② X 増加 Y 増加 Z 減少 |
| ③ X 増加 Y 減少 Z 増加 | ④ X 増加 Y 減少 Z 減少 |
| ⑤ X 減少 Y 増加 Z 増加 | ⑥ X 減少 Y 増加 Z 減少 |
| ⑦ X 減少 Y 減少 Z 増加 | ⑧ X 減少 Y 減少 Z 減少 |

B

第一次世界大戦の勃発によって、東アジアも大きな影響を受けた。日本は **ア** を理由に第一次世界大戦に参戦した。その中でドイツの勢力下にあった、中国の **イ** を占領するなど、日本は勢力を拡大させた。このため① 第一次世界大戦後、日本は五大国の一つとされるようになった。

しかし、日本の対外進出は中国で反発を生んだ。また② 台湾や朝鮮では、日本の統治に反対する運動もあり、原敬内閣は軍人以外の総督就任を認めるなど統治制度を一部改めた。日本の東アジアに対する政治外交は再編を迫られたのである。

他方、第一次世界大戦以前から続く日本の勢力の拡大は、当時の人々の生活にも影響を与えた。人々の移動によって③ 食文化の交流が盛んになったのはその一例である。

問 4 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **15**

- | | |
|----------------|------|
| ① ア 日英同盟 | イ 青島 |
| ② ア 日英同盟 | イ 天津 |
| ③ ア 石井・ランシング協定 | イ 青島 |
| ④ ア 石井・ランシング協定 | イ 天津 |

旧日本史A

問 5 下線部㉑に関連して、第一次世界大戦後の日本外交に関して述べた次の文 I～III について、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 16

- I 国際連盟の発足と同時に、常任理事国となった。
- II 対中強硬路線をとる田中義一内閣が成立した。
- III 日ソ基本条約に調印し、ソ連との国交を樹立した。

- ① I — II — III ② I — III — II ③ II — I — III
- ④ II — III — I ⑤ III — I — II ⑥ III — II — I

問 6 下線部㉒に関連して、次の史料1と表に関して述べた後の文 a～d について、最も適当なものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 17

史料1

吾人は東洋の平和を維持する帝国の国際的地位に鑑み(中略)、台湾民心を統一せしむる最善の統治方策として、台湾住民をして、台湾特殊の事情に基づく立法に参与し、及び台湾における予算を議決せしむべき特別範囲における自治権を与うるの外なし、と認めたるをもって、大正十(1921)年春帝国議会に第一回台湾民選議会設置請願をして以来、毎年継続請願し、大正十五(1926)年帝国議会に第七回の請願を提出せり。

(林猷堂ほか『台湾議会設置請願理由書』)

表 朝鮮総督一覧

氏名	在任時期	総督就任時の地位
寺内 正毅	1910. 10～1916. 10	陸軍大将
長谷川好道	1916. 10～1919. 8	陸軍大将
斎藤 実	1919. 8～1927. 12	海軍大将
山梨 半造	1927. 12～1929. 8	陸軍大将
斎藤 実	1929. 8～1931. 6	海軍大将
宇垣 一成	1931. 6～1936. 8	陸軍大将
南 次郎	1936. 8～1942. 5	陸軍大将
小磯 国昭	1942. 5～1944. 7	陸軍大将
阿部 信行	1944. 7～1945. 9	陸軍大将

- a 史料1によると、日本国内における普選運動と同時期に、台湾についても政治運動が行われていたことが分かる。
- b 史料1によると、当時の台湾では、台湾を対象とした予算や法を台湾住民が決定する立法府があったことが分かる。
- c 表の中には、海軍大臣時代、ワシントン海軍軍縮条約に全権として調印した人物がいることが分かる。
- d 表の中には、朝鮮総督を務めた後に首相となった人物が複数いることが分かる。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

問7 下線部①に関連して、次の史料2～4は、中国料理に関する文章である。史料2～4から読み取れる外国の料理を受容した経緯について述べた文として誤っているものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 18

旧日本史A

史料2

洋食を調理する新家庭は多いが、支那(注)料理は品目さえ知っている主婦が少ない。明治初年以来西洋の文物を学びその事物を何でも良いものとしており、食物も同様である。これに対し、日清戦争以来、日本人には支那を侮辱する考えが生まれ、支那料理は日本人の嗜好しこうに合うはずだが、そうならないのは全くこれが原因である。 (『日常生活衣食住』1907年、大意)

(注) 支那：当時用いられた中国の呼称。

史料3

純粹の支那料理は大変結構なものでございますけれど、さっぱりしたものを好む人や洋食の嫌いな方には、幾分かあぶらの強い傾向がないでもありません。それでここには支那料理の献立にして調理を日本人向きに加減しました。これならば誰の口にも合いましょう。 (『主婦之友』1922年12月号)

史料4

日中間が紛糾しているにもかかわらず、美味うまいいものは美味いと見えて、東京市の統計によると市内に九百余軒の支那料理店がある。(中略)日本のそばは単調過ぎる。洋食はいやだ、という人には支那そばがよい。量がある。安値である。味も複雑である。 (『小資本開業案内』1932年)

- ① 史料2からは、日清戦争をきっかけとして、清を見下す風潮が日本社会に生じ、中国料理が家庭に普及していなかったことが分かる。
- ② 史料2からは、日本では、西洋の文化を尊重する風潮の下で、中国料理に先駆けて洋食が人々の間に普及し始めていたことがうかがえる。
- ③ 史料3からは、中国料理を日本人の味覚に合わせるため、そのレシピに様々な工夫が加えられたことがうかがえる。
- ④ 史料4からは、満州事変に伴う対中国関係の悪化によって、中国料理を食べることは禁じられたと考えられる。

第4問 高校生のトモさんは、近現代の日本の産業発展と環境問題について調査し、次のプリントA・Bを作成した。この文章を読み、後の問い(問1～7)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 22)

A 近代における産業発展に関するプリント

- ・ ㉓ 明治期以降、産業発展のための基盤となる鉄道が整備された。
- ・ 江戸時代から作られていた生糸に関しては、明治期になって、官営の富岡製糸場などが設立され、**ア** 技術による増産が可能になった。
→特に明治初期の製糸業では、熱源として多くの薪や木炭が必要とされたため、木が乱伐されることもあった。
- ・ 紡績業では、第一国立銀行を設立した **イ** が中心となって大阪紡績会社を作り、大量生産を実現した。
→ ㉔ 紡績工場から大量の煙が排出され、各地で対応が必要になった。

問1 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **19**

- ① ア 座繰製糸 イ 岩崎弥太郎
- ② ア 座繰製糸 イ 渋沢栄一
- ③ ア 器械製糸 イ 岩崎弥太郎
- ④ ア 器械製糸 イ 渋沢栄一

問2 下線部㉓に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 **20**

- Ⅰ 官営の東海道線が全通した。
- Ⅱ 半官半民の南満州鉄道株式会社(満鉄)が設立された。
- Ⅲ 政府の保護と華族の出資によって日本鉄道会社が設立された。

旧日本史A

- ① I — II — III ② I — III — II ③ II — I — III
④ II — III — I ⑤ III — I — II ⑥ III — II — I

問 3 下線部⑥に関連して、次の史料1に関して述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

21

史料1

昭和三(1928)年末の統計によりまして、大阪市内の主なる繊維工場(中略)十二か所について調べてみました。それによるとすでに全部を電化しておりますのは十二あります。それから蒸気機関と電力装置とを併用しているのが八つ、(中略)この電化によりまして、事業者は自らの生産能率を高め、我々市民は煤煙ばいえん(注)から逃れて非常な便宜を得ている次第であります。

(『大大阪』1931年11月号)

(注) 煤煙：石炭を蒸気機関で燃焼させたときに出る煤すすと煙けむり。

X 史料1によれば、大阪市内の工場で電化が進んだことにより、生産能率が向上し、煤煙問題も緩和された。

Y 史料1が書かれた時期には、都市部を中心に電化が進み、テレビや電気洗濯機が普及した。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

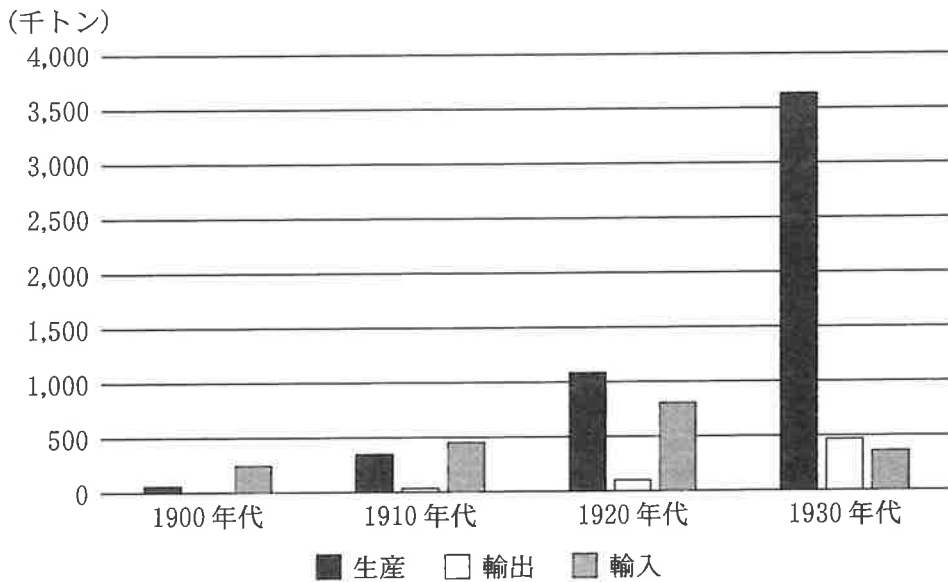
B 近現代における鉄工業の成長と環境問題に関するプリント

- ・ 軽工業だけでなく、㉓ 鉄鋼業などの重工業の発展も重要だった。
→工場からの排水や排煙により、健康被害が発生。
- ・ 鉄業においても近代技術が導入され、採掘量が増大した。
→㉔ 足尾銅山鉄毒事件などの公害問題が発生。
- ・ 高度経済成長期には、石油(石油化学)コンビナートが造成されるなど、重化学工業化が一層進展した。
→㉕ 水や大気の汚染が社会問題化し、各地で環境問題を意識した革新自治体が誕生。

問 4 下線部㉓に関連して、鋼材の生産量と輸出入量の推移を示した次のグラフに関して述べた文として誤っているものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

22

グラフ 鋼材の生産量と輸出入量の推移(10か年平均)



(三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』により作成)

旧日本史A

- ① グラフに示された全期間を通して、生産された鋼材は主に国内で利用されたと考えられる。
- ② 1900年代から1910年代における生産量の変化の背景には、造船業の発展や、それを促す海運業の成長があったと考えられる。
- ③ 1910年代から1920年代における輸入量の変化の背景には、金本位制に復帰したことがあったと考えられる。
- ④ 1920年代から1930年代における生産量の変化の背景には、対外関係の悪化に伴う軍需生産の拡大があったと考えられる。

問5 下線部④に関連して、次の史料2を見つけたトモさんは、その内容をまとめた後のメモを作成した。メモに関して述べた文として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 23

史料2 田中正造の天皇直訴状の一部(大意)

東京の北四十里(注1)にして足尾銅山あり、近年鉱業上の洋式器械の発達するに従いてその流毒益々多く、その採鉱製銅の際に生ずる所の毒水を溪流に注ぎ、渡良瀬川に流出して沿岸その害を被らざるなし。加うるに近年山林を乱伐し、水源を赤土となせるがゆえに、河の形が激変して洪水また水量の高まること数尺、毒流四方に氾濫し、魚族は死に、田園は荒廃し、数十万の人民は財産や職を失い、老幼は倒れ、壯者は他の土地に流離せり。

政府当局が天皇陛下の統治する土地と人とを悲境に陥らしめて省みるなきもの、臣(注2)の黙止^{あた}すること能わざる所なり。政府当局をしてよくその責を尽くさしめねばならぬ。

(『田中正造之生涯』)

(注1) 里：約4 km。

(注2) 臣：ここでは田中正造のこと。

メモ

< 鉱毒の原因 > : 採鉱・製銅の際に生じる毒水→渡良瀬川への流出や、山林の乱伐を原因とする水害によって、**鉱毒が蔓延した。**

< 鉱毒の被害 > : 魚類の死滅、田畑の荒廃→このままでは近隣住民の生活への影響が生じるであろうと予想している。

< 責任の所在 > : 国土や人民の苦境を放置している政府→なんとかして政府に責任を果たさせなければならない。

- ① メモの< 鉱毒の原因 >に関する記述は、史料2を誤ってまとめている。
- ② メモの< 鉱毒の被害 >に関する記述は、史料2を誤ってまとめている。
- ③ メモの< 責任の所在 >に関する記述は、史料2を誤ってまとめている。
- ④ メモの記述は、史料2を正しくまとめている。

問 6 下線部◎について、次の新聞記事X・Yと、それに該当する後の語句a～dとの組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 24

X いわゆる四大公害訴訟の中では、イタイイタイ病、水俣病につぐ三番目の一審判決となる。他の三件は被告が単一企業で、原因物質が重金属というケースであるのに比べて、この訴訟は、石油(石油化学)コンビナートの排煙による大気汚染にからんで複数企業を相手にしているのが特徴。

Y 琉球政府主席の屋良朝苗氏は美濃部亮吉氏の知事室を訪ね、約二十分間、就任のあいさつをかねて歓談した。美濃部知事は「革新系が政治を担当すると、住民はすぐにも生活がよくなるように考えがちだ。ことに沖縄では県民の不満が強いだけに大変でしょう」と革新知事として尋ねた。

a 三重県 b 富山県 c 大阪府 d 東京都

- ① X — a Y — c ② X — a Y — d
- ③ X — b Y — c ④ X — b Y — d

旧日本史 A

問 7 トモさんはプリント A・B を基に調べたことをまとめた。近現代の工業化と環境問題について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 明治初期における製糸業の主な燃料は石炭ではなかったため、自然環境と調和しながら発展した。
- ② 重工業の発展による大量生産の実現は、各地で煙害を引き起こした。
- ③ 高度経済成長期に公害への対策を求める運動が広がった。
- ④ 1960年代から1970年代前半にかけて、福祉・環境政策に積極的に取り組む革新自治体が各地で誕生した。

第5問 次のメモは作家田辺聖子に関する年譜であり、後の史料は田辺聖子の日記(1945～46年)である。メモと史料を読み、後の問い(問1～7)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 22)

メモ

1928年 3月	大阪市に生まれる。家は写真館を経営していた。
1940年 4月	高等女学校入学。この頃から物語を書き始める。
1944年 4月	樟蔭女子専門学校 <small>しょういん</small> に入学。国文学を学ぶ。
1945年 1月	㉑ <u>勤労働員により航空機部品工場</u> で働く。その後、動員先が学校内の工場に移り軍服の縫製作業を行う。
6月	㉒ <u>大阪大空襲</u> で自宅が焼ける。
1947年 3月	樟蔭女子専門学校を卒業。
1957年 1月	「虹」で大阪市民文芸賞を受賞。
1964年 2月	「感傷旅行」 <small>センチメンタル・ジャーニー</small> で第50回芥川賞を受賞。
1995年 1月	㉓ <u>阪神・淡路大震災</u> を経験。
2008年11月	㉔ <u>文化勲章</u> を受章。

(『田辺聖子 十八歳の日の記録』、『田辺聖子全集』により作成)

問1 下線部㉑に関連して、戦時中の学生・生徒・児童について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① アメリカとの戦争が始まると、学生・生徒を軍需産業に動員するために、国民徴用令が新たに制定された。
- ② 1943年には、大学に在学中の徴兵適齢の文科系学生を徴集する学徒出陣が始まった。
- ③ 都市部への空襲が激しくなると、学童の集団疎開が行われた。
- ④ 労働力不足により、女性を含めた学生・生徒も工場での軍需生産などに従事することが求められ、田辺聖子も動員された。

旧日本史A

問 2 下線部㉑に関連して、6月の大阪大空襲に至るまでの出来事に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 27

- Ⅰ サイパン島が陥落し、アメリカによる本土空襲が本格化した。
- Ⅱ アメリカ、イギリス、ソ連の首脳は、ヤルタで会談を行い、ソ連の対日参戦などを密約した。
- Ⅲ 関東軍は、ノモンハンでソ連軍・モンゴル軍と軍事衝突し、大きな打撃を被った。

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ
- ④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

問 3 下線部㉒に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 28

- X この震災では、原子力発電所も甚大な被害を受け、原子力発電の安全性が問題視されるようになった。
- Y この震災の処理にあたった村山富市内閣は、自由民主党・日本社会党などを与党として成立した。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
- ③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

問 4 下線部㉔に関して、文化勲章を受章した人物について説明した次の文X・Yと、それに該当する後の語句a～dとの組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 29

X 感覚美を尊重する耽美派の作家として人気を博した。

Y 映画『羅生門』が、国際的にも高い評価を受けた。

a 志賀直哉

b 谷崎潤一郎

c 小山内薫

d 黒澤(黒沢)明

① X — a Y — c

② X — a Y — d

③ X — b Y — c

④ X — b Y — d

史料

—1945年—

4月14日 家では相変らずの生活状態だ。母一人忙しく立ち働き、(中略)お母さんの体はいくつあっても足りない。

5月23日 ドイツは遂に屈したが、日本はあくまで一億が玉碎するまで戦うであらう。(中略)我々女性もまた、銃を取り剣を握る。私は体が悪いけれども、しかしいざとなれば、人には遅れを取らぬつもりだ。

9月 9日 世の中の急変はめまぐるしい。(中略)東京へ進駐してきたアメリカ兵は、元帥 ア を先頭に、星条旗を仰いで敬礼している写真が載っていた。

10月14日 「げにさなり ㉔首相の君に もの申す 粥一碗に つなぐ命と」

11月 1日 父の病気は一向、はかばかしくなく、家中はじめじめしている。

(中略)家の経済状態は暗黒だ。母が今まで働いた金であやうく家を支えもっている。

旧日本史A

—1946年—

4月10日 今日は初めての投票日で母は隣の小母^{おぼ}さんといっしょに投票場へ行っている。

4月24日 副食物を買いに行っても、十円単位、配給も闇値同様値上りしているから、つらいものだ。収入のない私の家では、苦しいことこの上なし。(中略)早く私も卒業して、弟や妹の学資を稼ぎたいと思う。しかし、いつかは大学へいきたい。昨夜、母は袖を縫いながら、「今年の八月の夏休み、働いたらどう？ 一ヶ月ぼんやりしてたって…」と聞いた。

12月23日 こんにちはの小説は、織田作之助とか 、坂口安吾など、デカダン(注)の方向に向かっているのは悲しむべきことだ。(中略)事実、今の人類を救う理想は、どこにもない。人間不信におちいった現実の日本には、美しい理想は影もささぬ。

(『田辺聖子 十八歳の日の記録』)

(注) デカダン：虚無的・退廃的な態度で生活するさま。

問 5 空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア マッカーサー イ 太宰治
- ② ア マッカーサー イ 小林多喜二
- ③ ア ドッジ イ 太宰治
- ④ ア ドッジ イ 小林多喜二

問 6 下線部㊸は、幣原喜重郎を指している。幣原内閣の時期の出来事に関して述べた次の文 a ~ d について、正しいものの組合せを、後の①~④のうちから一つ選べ。 31

- a GHQ は、特別高等警察の廃止や、治安維持法の撤廃などを内容とする人権指令を発したが、内閣は消極的な姿勢をとり総辞職した。
- b GHQ は、女性の解放・労働組合の育成・教育の民主化などを内容とする五大改革指令を発して、日本政府に実行を迫った。
- c インフレを抑えるために金融緊急措置令が出されたが、効果は一時的であった。
- d 憲法問題調査委員会が大日本帝国憲法の改正案を作成し、これが日本国憲法として発布されることとなった。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

問 7 戦時中と敗戦後の社会状況を踏まえて、史料の内容について述べた文として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。 32

- ① 枢軸国で日本だけが戦争を続けている状況に田辺聖子は戦意を喪失し、戦争が早く終わることを期待していた。
- ② 田辺聖子の家庭では病気の父を抱えながら、母が家計を支えていたが、戦争が終わるとともに生活が楽になった。
- ③ 田辺聖子の母が「小母さん」と行った選挙は、母にとって生まれて初めて投票権を得た総選挙であった。
- ④ 敗戦後の虚無的な世相を反映した文学に田辺聖子は共感し、好意的な感想を記していた。